

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	50株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同事務取扱所	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 証券代行事務センター（〒168-0063） 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031（フリーダイヤル）
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
公 告 方 法	電子公告とし、当社のホームページ （ <a href="http://www.nihon-trim.co.jp">http://www.nihon-trim.co.jp</a> ） に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によっ て電子公告による公告をすることができない 場合の公告方法は日本経済新聞に掲載する方 法といたします。



○当社ホームページが新しくなりました。

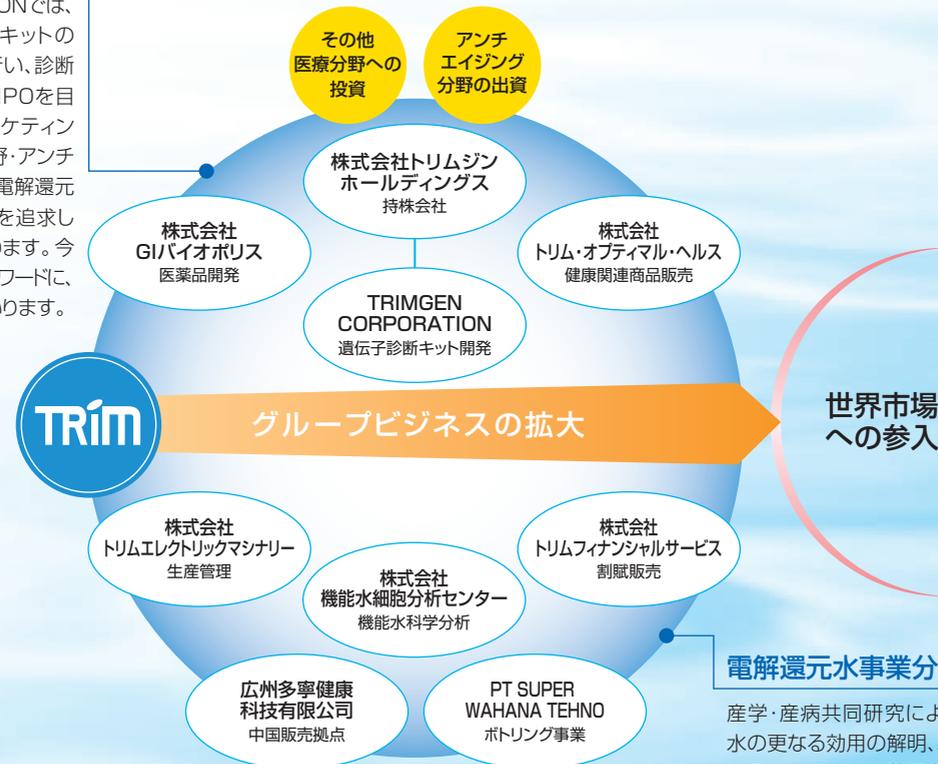
# 「日本発の技術で世界のオンリーワン企業の構築」を目指す。

新たな目標へ向けて、中長期ビジョンに則った積極投資を推進します。

飲用分野では、家庭用電解還元水整水器製造・販売事業に加え、ボトリング事業のグローバル展開、医療・予病分野への本格的進出による世界市場へ向けたグループビジネスの拡充を図ってまいります。

## 新規事業・投資分野

遺伝子関連米国グループ会社 TRIMGEN CORPORATIONでは、本年10月に遺伝子診断キットのFDA510(K)の申請を行い、診断分野参入及び近い将来のIPOを目指し、産学共同研究、マーケティングを推進。また、バイオ分野・アンチエイジング分野へ出資し、電解還元水事業とのシナジー効果を追求した事業構築を目指しております。今後も「医療」・「健康」をキーワードに、積極的な投資を行ってまいります。



## 電解還元水事業分野

産学・産病共同研究により、電解還元水の更なる効用の解明、製品開発に取り組んでおります。飲用分野ではインドネシアでのボトリング事業は順調に進展しており、今後、世界の5兆円ポトルドウォーター市場へ参入を目指します。また、医療分野では医療用電解還元水整水器の本格的実用化に向けて、着実に前進いたしております。

## 「電解還元水」の更なる可能性を追求し、飲料分野・医療分野の市場を開拓

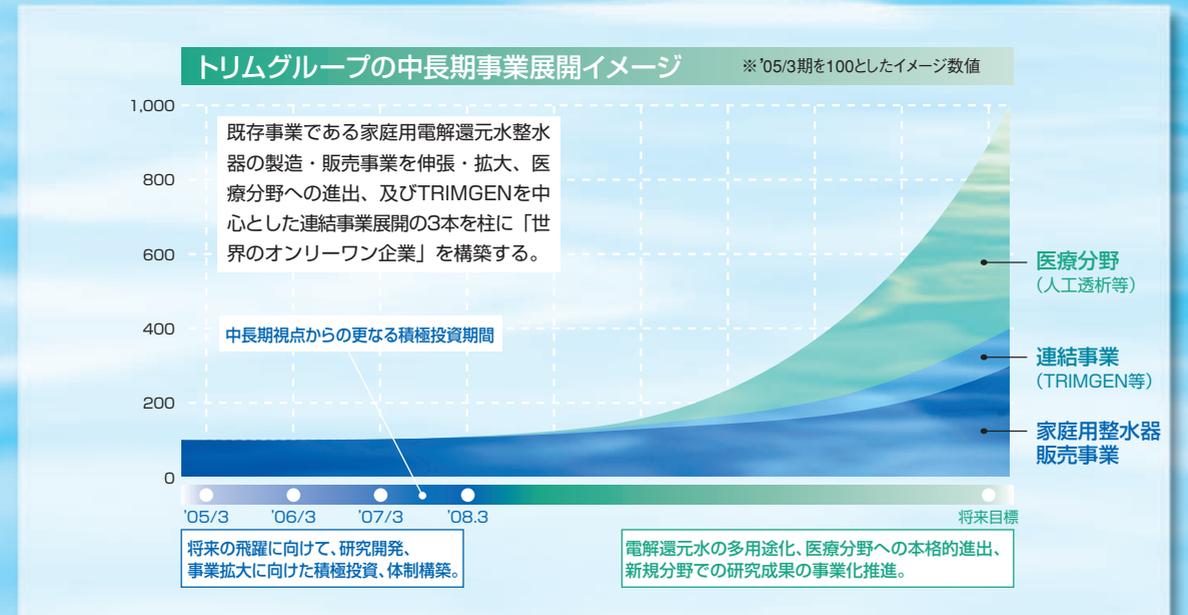
抗酸化機能（活性酸素の抑制）を持つことを科学的に実証された、「日本トリムの電解還元水」は、日常的に飲用することで、生活習慣病のリスク軽減につながると期待されています。美味しさに加え、健康維持にも役立つ水として、整水器事業、ボトリング事業は、これから本格化するセルフメディケーション時代という大きなビジネスチャンスを迎えます。

現在取り組んでいる人工透析への応用や、今後研究を進めていくメタボリック症候群への効果の検証など、電解還元水は医療分野においてもその可能性は非常に高いものがあります。更には抗糖尿病効果やガン細胞抑制効果についても国際学術誌で論文を発表するなど、医療、予防・代替医療での活用に向け、研究開発を推進しています。

## 経営戦略として知的財産権の取得を推進し世界市場でのポジショニングを確保

日本トリムは、数多くの大学・研究機関と連携し、電解還元水の研究を進めております。そこで得た成果は世界各国で特許の申請・取得を行い、知的財産権による優位性を確保しています。特に電解還元水の人工透析への応用をはじめとする医療分野では、将来的に独占的な市場を構築できるものと考えております。

知的財産権の取得は、トリムグループの経営上の基本戦略であり、最重要事項として位置付けています。それはバイオ関連事業などの新規事業分野におきましても同様であり、「研究→論文・学会発表→特許取得→製品化・実用化」のビジネスモデルを基軸に、今後、世界市場における当社のポジショニングを確保してまいります。





代表取締役社長 **森澤 紳勝**

×

クリニックF院長 **藤本 幸弘 氏**

◆PROFILE

神奈川県生まれ。  
東京大学医学部大学院修了。  
医師。医学博士。経営学修士。米国レーザー学会  
フェロー（専門医）。クリニックF院長。  
「肌質の向上と改善」をテーマに、アンチエイジ  
ング領域で幅広く活躍中。



## 健康で快適な生活を創造する「水」

水をテーマに様々な領域へ事業展開を図る電解還元水整水器メーカーの日本トリム。

今回は、「機能水」という概念をかかげ、日本発の技術で世界へ進出する水のオンリーワン企業を目指す当社社長の森澤が、肌質の向上と改善をテーマにオンリーワンのレーザークリニックを目指すクリニックFの藤本幸弘院長をお迎えし、科学との融合で未知の分野へと挑むその思いを語って頂きました。

### 水の持つ機能に注目し、共同研究を推進

**森澤** 「水」は生命の源であり、私たちが生きていくために欠かせないものです。当社は世界に先駆け「水に機能がある」とい

うことに着目し、この「水」を事業の核として、世界のオンリーワン企業を目指して産学共同研究に取り組んできました。

**藤本** "水に機能がある"という新概念を打ち出したことは、非常に興味深いと思います。人間の体の約70%が水だという

ことは広く知られていますが、それは成人の場合で、実は赤ちゃんの時に約80%だった水が、老人になる頃には約40%にまで減少します。つまり「若々しさ」はそのままイコール「みずみずしさ」と言えるわけです。ですので、どういう水を摂取するかが重要になってきます。

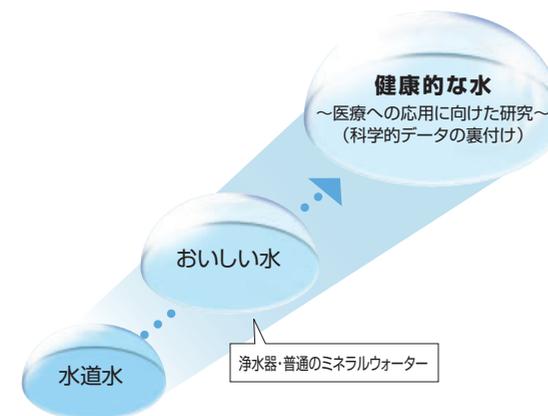
**森澤** そうですね。そこで、まず、本当に良い水とはどんな水なのかを知ることが大事ですね。私たちは、当社を通じてお客様が摂取する水がどういう点で優れているか、きちんと情報提供していくことが大切だと考えています。当社が販売している電解還元水整水器は、胃腸症状の改善に効能効果を

認められた医療機器です。胃腸を正常に保つことは、健康にとっても大切なことです。しかし、電解還元水の機能はそこにとどまるものではありません。これからも、電解還元水が持つ様々な機能を科学的に証明した上で、健康に最適な水を提供していくことが、我々の使命だと思っています。

### アンチエイジング

**森澤** 今、「アンチエイジング」という言葉をよく目にしますが、アンチエイジング分野でも、抗酸化性を持つ当社の電解還元水が貢献できるのではないかと考えています。

#### 日本トリムの電解還元水



#### 食事バランスガイド





**藤本** 私の専門は肌のアンチエイジングですが、最近治療をしていて感じるの、アメリカから取り寄せた最新鋭のレーザー機器を使っても、内側から錆びている肌に効果を出すのは難しいということ

です。人間は35歳あたりから、体内の活性酸素を抑制する酵素が減り始め、様々な症状が起きてくる。これがエイジング（老化）の始まりです。米国の学会では、活性酸素をどう取り除くかがアンチエイジングにとって重要なファクターだと言われています。

**森澤** 過度の運動やストレスによって活性酸素が過剰に発生すると、様々な病気を引き起こす原因になると言われています。私たちは、電解還元水の医療への応用に向けた研究に取り組んでいますが、その中でも活性酸素の抑制は一つのキーワードになっています。先にも述べましたが、電解還元水は抗酸化性を持ちますので、今後、多方面での応用の可能性があります。

## 「水」を通じた社会貢献

**森澤** 現在、九州大学大学院との基礎共同研究がほぼ終了し、様々な応用研究に取り組んでいるところです。医療分野では、1995年以来、電解還元水を人工透析に用いるための研究を台湾大学との共同研究で行っており、その成果は米国の医学誌で論文発表しています。

**藤本** 人工透析の分野では、これまで、透析液に添加する溶質は研究されてきましたが、私の知る限り、溶媒である水の研究はありません。そこに注目されたのは画期的なことです。

**森澤** 現在は実用化に向け、東北大学医学部と臨床研究に取り組んでおり、新たに3病院と開始する計画をしています。

**藤本** 透析治療は、患者の方々の負担が大きいので、その負担を軽減できれば、社会的にも大変意義がある研究です。

**森澤** また、透析に関わる医療費は一人あたり年間約550万円、患者数が約25万人とすると約1兆4,000億円近くにのぼるといわれていますが、私たちはこの研究によって、国民医療費の削減にも貢献できると考えています。この他、新分野として取り組んでいるものに農業分野があり、電解還元水を使った減農薬・無農薬

農業の研究などを進めていますが、これも環境問題への貢献につながります。

## 知財を武器に、世界の飲料水市場へ

**藤本** そうした産学連携で進めてきた研究開発を Patent として押さえ、知的財産として蓄積している点が日本トリムの強みですね。

**森澤** 私共は、当社はまだベンチャー企業だと考えています。ですので、知財は大企業に互していくための強力な武器です。今後はこれらの Patent を基礎として、5兆円産業といわれる世界のボトルドウォーター市場にも参入したいと考えています。遺伝子関連グループ会社 TRIMGEN CORPORATION の他、海外では現在、中国やインドネシアにも新会社を立ち上げ、家庭用浄水器やボトルリング水の現地生産・販売を始めています。

**藤本** 私は先日インドネシアで講演した際、人々の水への意識が高いことに驚きました。そこで、水が持つ機能の話もしましたが、大きな反響がありましたね。

**森澤** おっしゃる通り、良い水に対する注目、そして需要は

世界中で高まっています。その中で、私たちにとっては今後、いかに科学的な根拠に基づき、ニーズに合った個性的な水を提供できるかが肝心だと考えています。

## 世界のオンリーワン企業を目指す

**藤本** 日本トリムの「トリム」は、バイキングの言葉で「バランスがいい」という意味だそうですね。「世界の海を征するバイキングの言語から社名をつけた」と伺って、森澤社長の水事業にける思いが伝わってくるような気がしました。

**森澤** ありがとうございます。水の機能は日本発の発想で、欧米ではまだまだ認識されていません。二十一世紀は水の時代、水素の時代と言われています。これからも真摯な研究を続け、世界の人々の健康でバランスのとれた生活に貢献していきたいですね。そして、バイキング精神で、積極的に世界に進出し、世界のオンリーワン企業を目指したいと思えます。



## 新商品発売！ 新CMの放映

本年10月より、新製品『トリムイオンTI-5HX』の販売を開始いたしました。

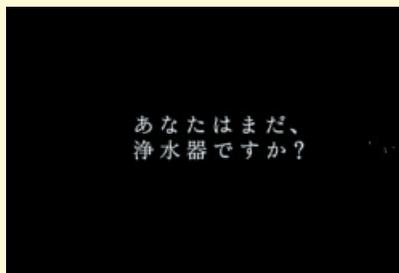
新商品TI-5HXは、液晶パネルの採用等、消費者の視点に立ち、使いやすさ・清潔感を基調としたデザインとなっております。

また、現在、毎日放送系列「知っとこ！」(毎週土曜日朝7:30~9:25)にて放映中のCMが、11月3日放送分より新しくなりました。

新CMでは、整水器と浄水器の差別化をテーマに、整水器の認知度向上を目指しています。



【トリムイオンTI-5HX】



## 四国アイランドリーグ・高知ファインティングドッグスのメインスポンサーに！



来期より、四国アイランドリーグ「高知ファインティングドッグス」のメインスポンサーとして、プロ野球選手を目指し、夢を持ち続ける選手たちを、多方面からバックアップしてまいります。

当社は、スポーツ選手にとって重要な水分補給の面からの貢献及びトリムブランドの認知度向上を目指し、プロ・アマを問わず、オフィシャルサプライヤーとして、また、各種スポーツイベントのメインスポンサーとして取り組んでおります。

更には、「水」を通じた社会貢献活動にも積極的に取り組んでおります。

(写真：07年10月22日記者会見(高知市) 左から、(株)IBLJ 鎌山社長、球団代表兼GM 藤川氏、当社社長 森澤、北古味オーナー)

### 電解還元水整水器

75.2%



水道水に含まれる溶解性鉛・塩素等を大型カートリッジで除去し、更に電気分解によって抗酸化性を持つ電解還元水を常に安定的に生成する医療機器です。

### カートリッジ

19.4%



抗菌活性炭使用浄水カートリッジ、中空糸膜使用鉛除去浄水カートリッジ等、各電解還元水整水器専用のカートリッジです。

### 電解還元温泉器

0.6%



水道水に含まれるカルキ(残留塩素)を除去し、更に電気分解によって還元性の温泉源泉に近い湯水に変える機器です。

### 電位治療器

0.4%



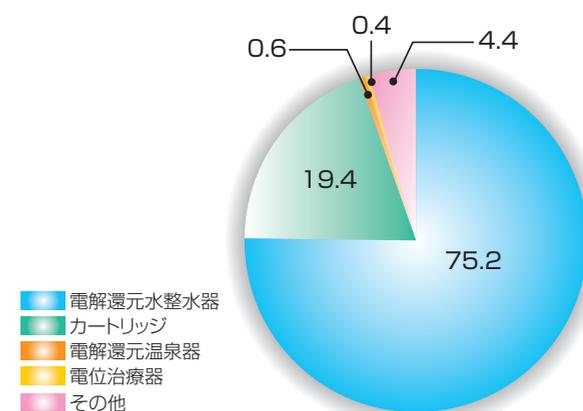
身体にとって大切なマイナスの電位を体内に帯電させることにより、不眠症・頭痛・肩こり・慢性便秘等を改善する医療機器です。

### その他

4.4%



富士山麓で採取した天然水を電気分解したボトルドウォーター「I'm fine」、機器部品、修理費等



■ 電解還元水整水器  
■ カートリッジ  
■ 電解還元温泉器  
■ 電位治療器  
■ その他

中間連結貸借対照表

科目	(単位：百万円)		
	当中間期末 平成19年9月30日現在	前中間期末 平成18年9月30日現在	前期末 平成19年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	7,770	8,038	7,443
現金及び預金	4,343	4,753	4,362
受取手形及び売掛金	1,123	1,283	1,114
割賦売掛金	1,436	1,265	1,288
たな卸資産	620	506	491
繰延税金資産	123	124	112
その他	126	108	77
貸倒引当金	△ 3	△ 3	△ 3
固定資産	4,689	4,573	4,667
有形固定資産	3,489	3,525	3,520
建物及び構築物	905	950	923
土地	2,377	2,377	2,377
その他	206	197	220
無形固定資産	26	32	29
投資その他の資産	1,174	1,015	1,117
投資有価証券	485	392	463
繰延税金資産	169	156	166
その他	526	474	495
貸倒引当金	△ 7	△ 7	△ 7
資産合計	12,459	12,612	12,111

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

科目	(単位：百万円)		
	当中間期末 平成19年9月30日現在	前中間期末 平成18年9月30日現在	前期末 平成19年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債	1,843	2,060	1,539
支払手形及び買掛金	768	824	545
未払法人税等	373	510	315
賞与引当金	98	108	102
製品保証引当金	25	15	22
返品調整引当金	24	19	19
その他	555	584	535
固定負債	945	1,001	986
退職給付引当金	212	198	205
役員退職慰労引当金	183	183	189
預り保証金	397	435	423
その他	152	183	167
負債合計	2,789	3,062	2,526
(純資産の部)			
株主資本	9,622	9,487	9,534
資本金	992	992	992
資本剰余金	986	987	986
利益剰余金	8,051	7,728	7,896
自己株式	△ 408	△ 221	△ 341
評価・換算差額等	36	43	36
その他有価証券評価差額金	34	53	41
為替換算調整勘定	2	△ 9	△ 5
少数株主持分	11	19	14
純資産合計	9,670	9,549	9,585
負債純資産合計	12,459	12,612	12,111

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

科目	(単位：百万円)		
	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
売上高	4,893	5,403	9,571
売上原価	1,332	1,418	2,568
売上総利益	3,560	3,984	7,003
販売費及び一般管理費	2,863	2,922	5,612
営業利益	697	1,062	1,390
営業外収益	54	56	131
営業外費用	25	14	34
経常利益	725	1,105	1,488
特別損失	—	—	1
税金等調整前中間(当期)純利益	725	1,105	1,486
法人税、住民税及び事業税	354	491	701
法人税等調整額	△ 8	△ 8	0
少数株主損失	2	4	8
中間(当期)純利益	383	626	793

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

中間連結株主資本等変動計算書

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前期末残高	992	986	7,896	△ 341	9,534	41	△ 5	36	14	9,585
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当	—	—	△ 227	—	△ 227	—	—	—	—	△ 227
中間純利益	—	—	383	—	383	—	—	—	—	383
自己株式の取得	—	—	—	△ 67	△ 67	—	—	—	—	△ 67
自己株式の処分	—	△ 0	—	0	0	—	—	—	—	0
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△ 7	7	△ 0	△ 2	△ 3
中間連結会計期間中の変動額合計	—	△ 0	155	△ 67	88	△ 7	7	△ 0	△ 2	85
中間期末残高	992	986	8,051	△ 408	9,622	34	2	36	11	9,670

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

科目	(単位：百万円)		
	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	376	592	490
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 75	△ 140	△ 286
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 324	△ 412	△ 560
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	0	4
現金及び現金同等物の増減額	△ 18	39	△ 351
現金及び現金同等物の期首残高	4,362	4,713	4,713
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	4,343	4,753	4,362

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## 中間貸借対照表

科目	(単位：百万円)		
	当中間期末 平成19年9月30日現在	前中間期末 平成18年9月30日現在	前期末 平成19年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	4,430	5,543	5,238
現金及び預金	2,867	3,867	3,808
受取手形	26	67	13
売掛金	1,163	1,288	1,159
たな卸資産	89	63	44
繰延税金資産	113	114	104
その他	173	145	112
貸倒引当金	△ 3	△ 3	△ 3
固定資産	7,092	6,084	6,309
有形固定資産	2,833	2,878	2,858
建物	682	710	692
土地	2,033	2,033	2,033
その他	117	134	132
無形固定資産	20	27	23
投資その他の資産	4,238	3,178	3,427
投資有価証券	1,437	530	604
長期貸付金	2,317	1,999	2,143
その他	873	656	686
貸倒引当金	△ 390	△ 7	△ 7
資産合計	11,522	11,628	11,548

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

科目	(単位：百万円)		
	当中間期末 平成19年9月30日現在	前中間期末 平成18年9月30日現在	前期末 平成19年3月31日現在
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	1,154	1,289	1,091
買掛金	260	270	285
未払法人税等	347	461	288
賞与引当金	89	99	93
製品保証引当金	25	15	22
返品調整引当金	24	19	19
その他	408	424	382
固定負債	840	873	870
退職給付引当金	204	191	198
役員退職慰労引当金	162	165	170
預り保証金	397	435	423
その他	75	81	78
負債合計	1,994	2,163	1,961
<b>(純資産の部)</b>			
株主資本	9,493	9,411	9,545
資本金	992	992	992
資本剰余金	986	987	986
利益剰余金	7,923	7,653	7,907
自己株式	△ 408	△ 221	△ 341
評価・換算差額等	34	53	41
その他有価証券評価差額金	34	53	41
純資産合計	9,528	9,464	9,587
負債純資産合計	11,522	11,628	11,548

## 中間損益計算書

科目	(単位：百万円)		
	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
売上高	4,814	5,306	9,402
売上原価	1,363	1,523	2,705
売上総利益	3,451	3,783	6,697
販売費及び一般管理費	2,708	2,757	5,289
営業利益	743	1,025	1,407
営業外収益	64	65	149
営業外費用	14	12	27
経常利益	793	1,078	1,530
特別損失	382	—	0
税引前中間(当期)純利益	410	1,078	1,530
法人税、住民税及び事業税	327	443	633
法人税等調整額	△ 160	△ 9	△ 1
中間(当期)純利益	243	643	897

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## 中間株主資本等変動計算書

	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
前期末残高	992	986	7,907	△ 341	9,545	41	41	9,587
<b>中間会計期間中の変動額</b>								
剰余金の配当	—	—	△ 227	—	△ 227	—	—	△ 227
中間純利益	—	—	243	—	243	—	—	243
自己株式の取得	—	—	—	△ 67	△ 67	—	—	△ 67
自己株式の処分	—	△ 0	—	0	0	—	—	0
株主資本以外の項目の中間会計 期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△ 7	△ 7	△ 7
中間会計期間中の変動額合計	—	△ 0	15	△ 67	△ 51	△ 7	△ 7	△ 59
中間期末残高	992	986	7,923	△ 408	9,493	34	34	9,528

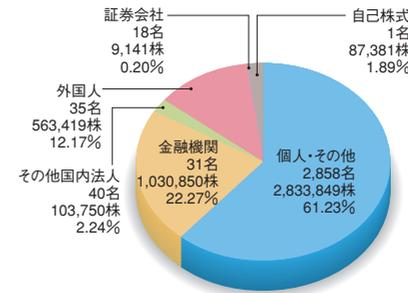
(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (平成19年9月30日現在)

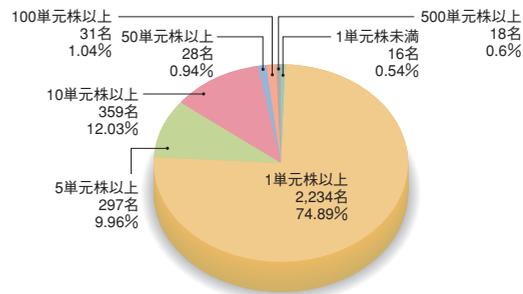
発行可能株式総数 8,000,000株  
 発行済株式の総数 4,541,009株  
 (自己株式87,381株を除く)  
 株主数 2,982名  
 大株主

株主名	持株数
森 澤 紳 勝	1,875,290 株
野村信託銀行株式会社	286,650
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	200,950
日興シティ信託銀行株式会社	189,300
メロンバンク トリーディング クライアランス オムニバス	185,250
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	169,100
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社	111,300
ブ ラ グ	65,950
株式会社フジウエル西日本	58,000
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	53,200

■所有者別株式分布状況



■所有単元数別株主分布状況



会社の概要 (平成19年9月30日現在)

商 号 株式会社日本トリム  
 NIHON TRIM CO., LTD.  
 本 社 大阪市北区大淀中一丁目8番34号  
 設 立 1982年(昭和57年)6月12日  
 資 本 金 992,597千円  
 従 業 員 390名(関連会社含む)  
 主な事業内容 電解還元水整水器及びカートリッジ・  
 家庭用電位治療器等の製造販売

役員 (平成19年9月30日現在)

代表取締役社長	森澤 紳勝	常勤監査役	森澤 邦雄
取締役副社長	須長 英明	監査役	山口 晃
常務取締役	西谷 由実	監査役	深見 彰生
常務取締役	三谷 禎秀		
取 締 役	植木 芳雄		
取 締 役	大坪 一道		

# 日本発の技術で世界の オンリーワン企業を 目指します。

## 日本トリムグループ

当社の既存事業である、家庭用電解還元水整水器の製造・販売事業を拡大すると共に、電解還元水の人工透析への応用へ向けた研究開発を推進、また、新事業投資分野では、TRIMGEN CORPORATIONを中心とした医療分野、バイオ・アンチエイジング分野等での事業展開により、世界のオンリーワン企業を構築してまいります。

### 国内

#### 株式会社日本トリム

設 立：1982年(昭和57年)  
 所在地：大阪市北区  
 業 種：電解還元水整水器及びカートリッジ・家庭用  
 電位治療器等の製造販売、ポルトドウォータ  
 ーの製造販売、電解還元水の研究開発



#### 株式会社トリムエレクトリックマシナリー

設 立：1990年(平成2年)  
 所在地：高知県南国市  
 業 種：電解還元水整水器及びカートリッジ・  
 家庭用電位治療器等の製造



ISO13485, ISO9001 認証取得

#### 株式会社トリムフィナンシャルサービス

設 立：2004年(平成16年)  
 所在地：大阪市北区  
 業 種：割賦販売業務

#### 株式会社トリム・オブティマル・ヘルス

設 立：2006年(平成18年)  
 所在地：東京都千代田区  
 業 種：健康関連商品販売会社

#### 株式会社機能水細胞分析センター

設 立：2004年(平成16年)  
 所在地：福岡市博多区  
 業 種：機能水科学分析

#### 株式会社GIバイオポリス

設 立：2003年(平成15年)  
 所在地：大阪府豊中市  
 業 種：消化管損傷修復因子の医療研究

#### 株式会社トリムジンホールディングス

設 立：2007年(平成19年)  
 所在地：東京都千代田区  
 業 種：持株会社

### 海外

#### TRIMGEN CORPORATION

設 立：1999年(平成11年)  
 所在地：米国メリーランド州ボルチモア  
 業 種：バイオテクノロジー、遺伝子診断

#### 広州多寧健康科技有限公司

設 立：2005年(平成17年)  
 所在地：中国広東省広州市  
 業 種：電解還元水整水器及び飲料水、  
 健康関連商品の製造販売

#### PT SUPER WAHANA TEHNO

出 資：2006年(平成18年)  
 所在地：インドネシア・ジャカルタ  
 業 種：ポルトドウォーター製造及び販売

### 日本トリムネットワーク

本 社：大阪  
 ：東京オフィス  
 支 社：東京・名古屋・広島・福岡  
 営業所：札幌・仙台・大宮・千葉・横浜・新潟・長野・  
 静岡・金沢・京都・岡山・山陰・松山・高知・  
 長崎・熊本・鹿児島

